

(別紙1)

自己評価及び外部評価結果
作成日

平成23年2月21日

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2791200054		
法人名	株式会社 アイズ		
事業所名	グループホーム なぎさ		
サービス種類	認知症対応型共同生活介護		
所在地	大阪府泉南郡岬町淡輪4658番1		
自己評価作成日	平成22年12月15日	評価結果市町村受理日	平成23年4月22日

【事業所基本情報】

介護サービス情報の公表制度の基本情報を活用する場合	http://www.osaka-fine-kohyo-c.jp/kaigosip/Top.do
情報提供票を活用する場合	

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 ケア・ウィル
所在地	吹田市千理丘下20-16
訪問調査日	平成23年1月31日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>当事業所は岬町で唯一のグループホームであり、隣接しているなぎさクリニックと連携しているため、高齢者に欠かせない医療面を充実させています。なぎさグループの第二なぎさクリニックでは入院設備も整っており、ご家族にも安心して頂けるとおもいます。 他にも、地域との連携や交流に力を入れています。近くに幼稚園や小学校があり、地元の子供達との交流も出来てきています。淡輪地区の福祉委員や岬町社協とも関係を築き、地域に開かれた介護施設を目指して取り組んでいます。</p>
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

<p>グループホームなぎさは病院に隣接しており、認知症高齢者は医療に対する必要性も高いため、本人にとっても家族にとっても安心して暮らせる環境である。地域の住宅地内にあるため、地域住民が利用しやすい環境でもある。住み慣れた地域で馴染みの環境で暮らせることは、当ホームの目指す目標でもある。平成21年に法人が新しく移設され、事業所と地域のために、という理念が作られ、地域に密着してアットホームな施設運営を目指している。理念は管理者と職員が意識として共有し、サービスの実践につなげている。利用者や家族の意向が尊重され、個々のサービス計画に組み込まれ、望む暮らしの支援が定着している。ユニット内は明るく、清潔感があり、安全に暮らせる環境が整っている。利用者と職員の双方に笑顔が多く見られる。日々の暮らしの状況が、随時家族に連絡、報告され、利用者や家族にとって安心して暮らせるホームである。</p>
--

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次にステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている		地域密着型サービスとして、地域でその人らしい暮らしが提供できるように、アットホームな暮らしの支援という事業所独自の理念を掲げられている。各フロアと玄関に理念が掲示されていて、管理職、職員が理念を共有して、介護実践につなげるようになっている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している		地域の福祉センターでクッキーを出していただいている。月1回職員と出かけ、地域住民との交流の機会になっている。近所を散歩して、地域の方と挨拶を交わし、日常的に交流を図っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている			
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている		昨年は2回開催している。メンバーとしては、管理者、ケアマネジャー、地域の民生委員、地域包括職員、高齢福祉課職員、入居者、家族の参加により開催された。会議での意見から、地域との連携の重要性を認識している。ホームからの報告としては、日常サービスの取組状況等報告されている。	運営推進会議では、外部の方の目を通して事業所における具体的な改善課題等についてより一層積極的な話し合いがされ、ホームが提供するサービスの質向上につながり、利用者の満足度が向上されるよう期待したい。
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組を積極的に伝えながら協力関係を築くように取り組んでいる		ホームの職員が役場の担当者を訪問し、ホームの入居状況や取組状況等が報告されるなど、市町村との連携がとられている。市町村からホームに認定調査員が調査に来たときなども情報交換がされている。ホーム全体で市町村との連携の重要性が認識され、実践されている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束しないケアに取り組んでいる		ベッド上での身体拘束はされていない。転倒、離設予防のために利用者の靴に鈴がつけられている。玄関には、施錠がされている。	帰宅欲求の強い方が数名おられるため、安全な暮らしの提供をするための工夫であるが、利用者個々に靴の鈴等についてどのように感じているかを確認しつつ、玄関の施錠等についても継続的に職員間で話し合いの機会を持つことを期待したい。
7		○虐待防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている			

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次にステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している			
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約または改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている			
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている		施設内に御意見箱が設置され、本人や家族からの意見を聞くシステムがあるが、御意見は入ったことがない。家族会が設けられ家族からの御意見を聞き、内容を施設運営に反映させている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている		職員会議やリーダー会議が3ヶ月に1回、運営会議が月に1回定期的に開催されている。それぞれの会議では、運営に関する職員の意見や提案を聞いている。内容は、事業運営に反映するようなシステムになっている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている			
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている			
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている			

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次にステップに向けて期待したい内容
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている			
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている			
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている			
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている			
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている			
20	8	○馴染みの人や場の関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている		本人が在宅生活で利用していた馴染みの美容院などを継続して利用している。家族と一緒に訪問し、馴染みの関係、馴染みの場所との繋がりが途切れないよう支援されている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている			

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次にステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている			
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いやりや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している		本人がどのように暮らしたいか、何をしたいかなどを理解するために、一人一人に丁寧にアプローチしている。センター方式を使用し、本人の生活史、意向を確認して、ホームでの生活に取り入れられている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている			
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている			
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している		介護計画については、本人、家族、介護職員、ケアマネジャーで担当者会議を開き、サービス内容を検討している。ケアマネジャーは、話し合われた内容を反映させて、施設サービス計画を作成されている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている			
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる			

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次にステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している			
30	11	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している		隣接する病院や提携する病院に定期受診する事を了承して貰っている。それ以外の通院はご家族に対応して貰うよう、入居時に説明して合意を得ている。病院が隣接している事で、医療的対応が速やかに、看護師の協力も密に行えている。歯科の往診も定期的に行われている。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるよう支援している			
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている			
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や、終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる		運営者が変わってから日が浅く、終末期に向けた取り組みは行っていない。現時点では医療的な対応が困難になると、病院への入院で対応する。今後は新しい体制が落ち着いたとき、終末期対応が可能な状況にしたいと考えている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている			
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている		年2回の避難訓練を行い、そのうち1回は消防署も参加して訓練が実施されている。入居者を非常避難経路へ誘導する訓練により、職員が入居者を安全に避難させる知識を身につけることができるシステムがある。備蓄品は普段から1週間分の食材が届くようになっている。	日中のホーム内での避難訓練は出来ているが、夜間の想定や地域住民を含めた訓練実施、また、災害時に備えた備蓄品のさらなる充実や点検を期待したい。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次にステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている		人生の大先輩に対する敬意を持ち、子供にするような対応や感情的な対応にならない様に努めている。また、入居者との間に慣れが生まれて言葉遣いが乱れないよう、職員会議でチェックをしている。各職員は入居者の人格や誇りを尊重し、言葉遣いや口調に注意しながら介助を行っている。個人情報の取扱に関する研修を行い、ミーティングやカンファレンス時に確認し合っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している			
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている		嚥下能力の弱った入居者に対しても、食材の原型を崩さない様に柔らかく煮込み、また、見た目から楽しんでもらえる工夫を行っている。食事の時は職員とテーブルを囲み、家庭的な雰囲気大切にしている。体調に合わせて介助も行なうが、食事の準備は、下ごしらえ、皮むき、など出来る事を手伝ってもらっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている			
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている			

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次にステップに向けて期待したい内容
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄パターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。		基本的に個別の支援を行っている。誘導の必要な入居者には、排泄のパターンを把握して声をかけている。入居当初おむつを使用する入居者に対しても、カンファレンスの際に話し合い、状況に応じてパッドに変更するなど自立に向けての支援を実施している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる			
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている		入居者個々に応じた介助を行ない、職員の見守りの中、一人ひとりがゆっくりと入浴できるような支援をしている。入浴を拒否する利用者には無理強いせず、他の職員に引き継いでいる。	職員の体制もあるが、入居者の希望に沿った対応をしている。さらには、入居者が入浴について何をどう感じているかを確認し、季節に応じた入浴の楽しみ方等、楽しめる入浴についての検討を期待する。
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している			
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている			
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている			

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次にステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している		毎月担当職員を決めて外出の行事を実施し、外出風景の写真をフロアに展示している。個々の気持ちを尊重するため、外出を嫌がる入居者に対して無理強いを行わない。日頃の外出は、気候が良い時に近隣を散歩している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している			
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している			
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている		共用空間は光量や色に配慮し、テーブル周りにも空間が多く、ゆったりと穏やかで落ち着いた雰囲気になっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている			
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている		それぞれの好みで、居室の飾り付けを行い、飾り付けの少ない居室は落ち着ける様に、職員が工夫している。室内は明るく、整理整頓されている。施設の設置した家具やベッドの利用が多いが、基本的には入居者の馴染みの家具を持ち込むことが出来る。各居室にトイレがあり、空気清浄機や換気扇も設置されている。	家具やベッド等、施設の物が多くあるため、見学した限りでは入居者の部屋はどれも同じ様に感じられた。家族と職員が協力して本人の思い出の物をさらに持ち込むよう促すことで、本人にとってさらに落ち着く、本人らしい居室の雰囲気作りについて検討することを期待したい。
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している			

V アウトカム項目			
56	職員は利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の
			②利用者の3分の2くらいの
			③利用者の3分の1くらいの
			④ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある
			②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の3分の2くらいが
			③利用者の3分の1くらいが
			④ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の3分の2くらいが
			③利用者の3分の1くらいが
			④ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の3分の2くらいが
			③利用者の3分の1くらいが
			④ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の3分の2くらいが
			③利用者の3分の1くらいが
			④ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らさせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の3分の2くらいが
			③利用者の3分の1くらいが
			④ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている	○	①ほぼ全ての家族と
			②家族の3分の2くらいと
			③家族の3分の1くらいと
			④ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねてきている	○	①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
			③たまに
			④ほとんどいない

65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くない
66	職員は生き活きと働けている	○	①ほぼ全ての職員が ②職員の3分の2くらいが ③職員の3分の1くらいが ④ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
68	職員からみて、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族が ②家族の3分の2くらいが ③家族の3分の1くらいが ④ほとんどできていない